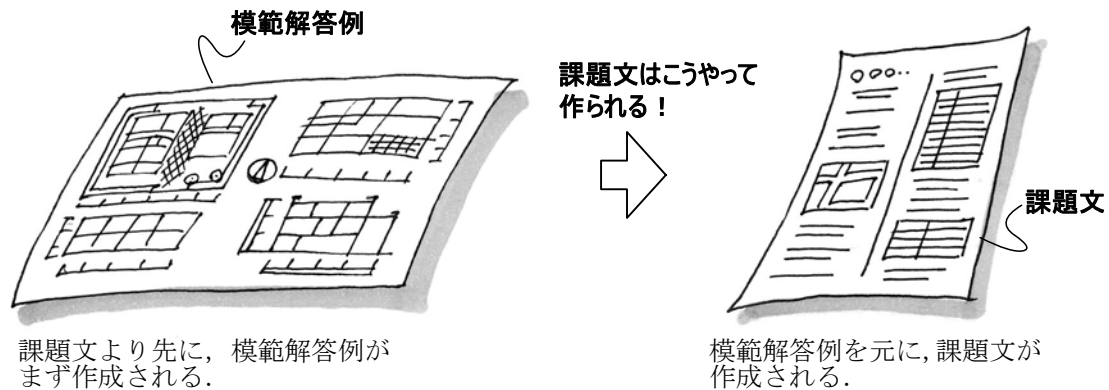


模範解答例作りって何？

プランニングのルールをマスターするための最も効果的な訓練方法が模範解答例作りです。



本試験課題も含めて、製図試験の課題文には、元となる解答例が存在します。それを『模範解答例』と呼びます。この模範解答例を元に、課題文が作成されるのです。

この模範解答例を自分自身で自由に作成するのが、模範解答例作りです。

そんなことやって意味あんの？1つでも多くの課題を解いた方が合格に近づけると思うのですが？

受験生の本音

模範解答例作りの練習を行うということは、製図試験に合格するために必要なプランニングのルールをマスターするための訓練であると同時に、課題文を作成する練習ということでもあります。つまり、模範解答例作りができるようになると、製図試験の課題文を作成できるようになるのです。

あなたは頭のどこかで、課題文とは、どこぞの偉い人にしか作成できないものと考えていませんか？そんなことは決してありません。プランニングのルールをマスターすれば、課題文は作成できます。第1章で説明してきたように、一級建築士になるためには、プランニングのルールをマスターすることが必要です。極端に言えば、一級建築士になるには、製図試験の課題文を作成できるようにならないといけなく、最低でも、その元になる模範解答例は作成できるようにならないと、一級建築士を目指すということ自体が到底無理な話になってしまいます。

自分に模範解答例を作成できるようになるのか、不安もあると思います。

大丈夫です！心構えと訓練次第で誰でも作成できるようになります。

実際に、これまで一度も設計（プランニング）の世界に関わったことがない人でも、きちんと作成できるようになっています。そして、この模範解答例作りを通して、プランニングのルールをマスターし、製図試験に合格した一級建築士が数多くいます。ここで、本気で一級建築士を目指しているあなたに、お伝えしておきたいことがあります。

模範解答例と課題文を作成できる人間が製図試験に合格できないわけがない！

そのことを、決して忘れないでください。

あなたのライバル達は、コロッケ作りのルールを知らないばかりか、一度もコロッケを食べたことがない状態で、コロッケ作りコンテストに参加してくるような人達です。あなたがコロッケ作りのルールをマスターしてしまえば、勝てないわけはありません。まずは、コロッケ作りのルールを知るところから始めましょう。

模範解答例作りのルール

設計条件を自由に設定して、模範解答例を作成しましょう。

課題文に載っている敷地の大きさや周辺条件を自由に設定して、建物を計画してください。要求室の名前、数、面積なども、全て自分で自由に決めてください。どんな建物にするのかは、全て、アナタ次第です。クライアントと設計者の二役を一人でこなすといった感じです。

ただし、いくつかのルールを頭に入れておいて欲しいのです。というか、そのルールを体感しておくことが、実は、製図試験のカラクリのひとつを解き明かすことにもなります。情報として知るだけでなく、体感しなければわかりません。製図試験に合格したければ、実践することを大事にしてください。

1. 図面を作成する用紙はA2サイズに限定！

当たり前の話ですが、模範解答例（図面）を作成する用紙のサイズは、本試験同様、A2サイズに限定されます。A2サイズの中に、各種図面と面積表などを納めなければなりません。ということは、おのずと敷地の大きさの上限も決まってきます。標準的な敷地サイズは、50m×40m程度となります。また、床面積の合計（2階建ての場合）は、2,500㎡程度となります。建物のウツワは、6×4コマを標準としてください（22ページ参照）。

2. A3サイズの内紙に計画の要点等を記述する

平成21年より、A3サイズの用紙に計画の要点等（10問程度）を記述するようになりました。したがって、模範解答例作りにおいても、設問と解答という形で、建築計画、構造計画、設備計画等について、10問程度を記述してみましよう。どんな内容を記述すればいいのかは、過去問題などを参考にしてください。

3. 6時間30分で完成できる難易度とする

試験時間内に8割程度の受験生が完成させられるような難易度で計画しましょう。本試験においても、受験生の4割程度しか完成できないような課題文が出題されたとしたら、大問題になってしまいます。そのような課題文の本試験で、もし、あなたも未完成に終わってしまったら、「難しすぎる！」と試験元にクレームをつけることでしょう。この難易度設定が非常に難しいのです。こだわり過ぎると難易度が高くなり過ぎてしまい、逆に手を抜いても掴みどころのない問題になってしまい難易度が高くなってしまいます（そこが、出題者側の泣き所であり、いわば、弱点です。それを学んでください）。

4. 千差万別の解答が出ないようにする

いろいろな解釈が可能な課題文が本試験で出題されたとしたら、採点して図面（プラン）の良し悪しを判定することができません（順位もつけられない!）。そこで、一発でプランの良し悪しを判定できるようにするための『落としどころ』を模範解答例の中に盛り込んでください（落としどころについては、21ページ参照）。

- ※ 3と4については、最初はよくわからないと思いますので、あまり気にし過ぎないようにしてください。しかし、常に頭の片隅には入れておかないと、何度練習しても、わかるようにはなりません。手っ取り早い方法としては、自分で作った模範解答例を元に課題文を作成してみて、その課題文を、同じ一級建築士の受験生に解いてもらう（又は自分で解いてみる）という方法があります。

注意① 特殊な設定は避ける

難易度設定にも関係してきますが、一部の受験生にしか解けない（わからない）ような特殊な条件設定は避けましょう。一級建築士の製図試験は、特殊な建物の設計能力を問うものではありません。アナタにしか解けないような課題では、試験として成立しません。オリジナリティを追求するコンペとは違いますので、実在する建物をモデルにすると考えやすいでしょう。

注意② 最初に設定した条件にこだわり過ぎない

最初に設定した、敷地や要求室の設定は、プランニングを進める途中で、必要に応じて自由に変更してもOKです。模範解答例としてのプランになるように、設計条件を随時変更、調整していきましょう。最初の設定にこだわり過ぎて、プランが上手くまとまらないようでは、本末転倒ですよ。

注意③ 課題文を先に作らない

模範解答例作りは、あくまでも、図面（プラン）が先です。自分で課題文を作成して、それを解く練習をするものではありません。課題文を作成するのは、模範解答例ができてからにしましょう。

～この辺でちょっと休憩～ エッセイ①

教育的ウラ指導って何？

■ 知る人ぞ知る建築士独学受験支援サイト！

教育的ウラ指導（以下、ウラ指導）というサイト（ホームページ）は、一級建築士独学受験支援サイトとして、平成11年よりスタートしました。サイトを立ち上げた目的は、受験生同士で集まり、力を合わせながら、独学合格を目指すことにありました。現在、ウラ指導発行メールマガジンの読者数は、年間6000名を越え、1日のアクセス数も多い日には、1万件を超えるようになりました。

そんなウラ指導の成長を支えてくれているのが**自主勉強会**の存在です。自主勉強会とは、各地域の受験生同士で集まり、お互いの知識やノウハウを持ち寄りながら勉強会を開催していくチームのことです。そこには講師はいません。自主勉強会で解決できない問題が生じた場合に限り、ウラ指導でフォローアップする仕組みです（費用も会場費程度しかかかりません）。現在、札幌、東京、大阪、博多、福山（広島）、鹿児島的主要6都市で自主勉強会が結成されています。各地域毎に、専用掲示板も用意されており、情報交換も活発に行われています。

■ 自主勉強会（通称：自主勉）について

自主勉強会（以下、自主勉）には、受験生というよりもむしろ、各地域の自主勉を通じて合格した合格者達や、合格後に自主勉の存在を知った一級建築士達のサポートが不可欠です。自主勉強会運営は、学科と製図とでは、大きく異なりますが、製図の自主勉強会からは、合格者の中から添削講師（ウラ指導の製図試験対策講座で図面の添削を行なう講師）が輩出されています。ぶっちゃけ、この製図試験に要求される程度のプランニング能力を身につけるということは、実は、そんなに難しいものではないのです。にもかかわらず、ここまで、つかみ所のない試験として多くの受験生達を震え上がらせている現状に関して私見を述べさせて頂ければ、『教え方の問題に過ぎない』と私達は考えます。

ウラ指導が目指すもの。それは、**ミセカケの受験テクニック指導ではなく、ホンモノのプランニング能力の習得**にあります。そういった受験環境の実現を各地域の自主勉チームと連携しながら、今後、より一層、受験生を主体とした運営体制を確立させ、展開し続けていきたいと考えます。

ウラ指導では、製図試験対策として、「通信添削講座」「国語力開発講座」「過去問題研究講座」といった講座を用意しております。また、「一発逆転模試」という模擬試験も行ない、独学受験生を全面的にバックアップいたします。詳しくは下記URLへアクセスしてください。または「ウラ指導」で検索！

www.ura410.com